

や やるぞ～ ま まけないぞ～ が がんばろうぜ～ た 楽しい学校になるように

敗れ去りし者たちへ！

オリンピック・パラリンピック、そして白翔祭が終了した。あらためて、スポーツのもたらす力の大きさを否定する者は誰一人いないだろう。

テレビでスポーツを観戦するのも実に楽しいひとときだ。しかし、私が部活動の指導に明け暮れていた若い自分、我が家は、特にボクシングの世界タイトル戦となると、決まって夫婦げんかが勃発した。

「やっぱり日本人に勝ってほしいわよね。」という妻に対して、「でも、新聞報道によると、このメキシコ人の挑戦者は、かなり貧しい家庭に生まれ育ったと書いてあるぞ。この試合に勝てば楽ができて、きっと親孝行できるんだろうなあ。」「本当に薄情な人だわね。それでも日本人なの。日本人なら日本の選手を応援するのが当たり前じゃないの。そんな甘っちょろいこと言って、よく部活の顧問なんてやってられるわね。」「薄情なのはどっちだよ。絶対にこの日本選手より挑戦者のメキシコ人の方が努力してきたに違いないよ。なんてったって生活がかかっているんだぞ。ハングリー精神が違うよ。」「どっちの方がたくさん努力してきたかなんて、どうしてあなたにわかるわけよ。努力の量を量る機械があるっていうの。あるなら出してごらんなさいよ。ほら早く出してごらんなさいよ。」「……………(助けて！ドラえもん)」と、決まって私の壮絶な KO 負けとなる。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

今春の市総合大会は6月14・15日だった。自分もずっと部活の顧問をしていたので、自分の学校の複数の競技をじっくり観戦することが初めてだと気がついた。我が校の生徒の、最後まであきらめずボールを追い続ける姿や、歯を食いしばって一人でも追い抜こうと力走する懸命な姿に純粹に感動した。応援する当事者として、当校の勝利に歓喜し、敗北に肩を落とした。生徒のあふれる涙に同情し、顧問のこれまでの労に想いを馳せた。

市内大会を見て回りながら、あらためて、子ども達に一番必要なこととは一体なんだろうと考えていた。勝つことの喜びか？努力することの大切さか？フェアプレーの精神か？机上では得られない人間形成か？

いや、どれも大切なことではあるが一番ではない。子ども達の想いを代弁するならば、勝とうが負けようが「この顧問の先生のもとでがんばってきて本当に良かった」「顧問の先生や指導者の先生と出会えて良かった」という思いではなからうか。

勝負の世界は非情である。勝者のみがもてはやされるのが世の常。もちろん努力の量を量る機械なんてありゃしない。甘っちょろいことを言っていると、また妻に怒られそうだが、スポーツや芸術文化のもたらす魅力や影響力の大きさを考えれば、部活動指導の使命は、スポーツ・運動や芸術文化に生涯いそしみ、スポーツや芸術文化を愛して止まない人間を一人でも多く育てることだと思う。例え、中学校を卒業してからその競技や取組を一生続けなくても、プレーヤー・表現者側でなく観戦・応援・鑑賞したりする側になったとしても。

そういう意味で、学校部活動での存在意義の大きさは計り知れず、場合によっては、教科担任以上に生徒と密なる関係となり得る顧問の全人格が問われるのが部活動だ。一方、部活動の指導は、教師の本分ではないのも事実。競技経験がない先生もいれば、家庭の様々な事情を抱えていたり、学校事情で顧問を務めてもらっている先生もいる。

しかし、技術指導がいくら未熟でも構わない。週に3日間の練習だって問題ない。賞状やメダルが取れなくてもノープロブレム。大事なのは生徒と接する場面、関わる場面で、生徒への“愛”があるかどうかだ。

部活動のみならず、子どもたちが求めるのは、自分の心に寄り添える、愛情に満ちあふれた先生方に指導してもらいたいことだ。

新人大会は中止になったが、君たちが目指す目標は目先の一勝二勝ではない。日々全力を出して自分の可能性を信じて生きることこそが全てだ。結果は自ずとついてくる。頑張れ、山瀉中健児！何度でも言おう。君がひたむきに生きる限り、私はいつまでもエールを送り続けると！

そして、私はこう思うのです・・・・・・・・・・・・・・・・

私が部活動の顧問をしていた時の最大のモチベーションは、生徒の心情なんてそっちのけ。「あんなマナーが悪い学校には負けたくない」「あんないい加減でテキトーな人間が指導しているチームに負けるわけにはいかない」でした。そんな身勝手なモチベーションをもとに、生徒に激しい檄を飛ばしていた自分は、指導者失格だと大いに反省しています。立場が変わって観戦・応援する側になっても、ハラハラ・ドキドキ。心臓に悪い年月は、まだまだ続きそうです。

勝負する限り、やっぱり勝ちたいのは人間の性ですから・・・・・・・・